

新年のあいさつ

衆議院議員 太田和美

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年は地元の皆さまの絶大なるご支援のおかげで、3期目の当選を果たし、国政の場に再び戻ってくる事ができました。冷え込む師走のお忙しい中、私をお支えいただきました全ての方々に、心より感謝を申し上げたいと思います。投票率が低く盛り上がり欠けた選挙ではありましたが、政治を良くしていくことをあきらめず、改革への期待を込めてご支援下さった皆さまからの1票の重みを、これまで以上に強く噛みしめた戦いでした。新年を迎えるにあたり、皆さまからの負託に確実に応えて行く決意を新たにしています。

生まれ故郷の柏市に戻って取り組んでいきたい最重要課題は何と言っても地域経済の再生です。アベノミクスの恩恵は、地方の中小企業や地域に暮らす生活には届いていません。物価上昇分を引いた実質賃金は、1年以上も下がり続けており、雇用も非正規社員ばかりが増えました。その結果、東京と地方、金融資産を持つ者と持たざる者の格差は広がり、社会不安が高まっています。

地域で働く場がしっかり確保できる環境が整わないかぎり、いくら予算をばらまいても地域は再生できません。地域の裁量で独自の政策が展開できるように、地方分権や規制緩和を一層進めるとともに、正規と非正規の賃金格差を解消する雇用制度を改革し、地方で働きやすい環境を作ってまいります。また、持続可能な社会保障制度の実現とともに、高齢者の居場所と出番を作り、女性が安心して子育てをしながら働くことのできる環境を整備することで、構造的な課題である少子高齢化問題に、正面から立ち向かってまいります。

福島原発事故は私たちに大きな衝撃を与えました。放射能による汚染は食い止められぬまま、いまだ数万人の方が故郷に戻れないにもかかわらず、政府は原発を再稼働しようとしています。地震大国の日本には原発は危険過ぎます。原発に代わるエネルギーの開発も確実に進んでいます。福島原発事故で大きな犠牲を払いながら、何も学ばないのでは真の復興はできません。自然エネルギーの推進、発送電分離による電力自由化、原発による放射性廃棄物の最終処分などの課題を、一步一步着実に解決していきながら、これまで以上に、福島の復興と原発のない社会の実現のために全力で取り組んでまいります。

終戦後70年を迎える2015年は、この国の針路を決める重要な年となりそうです。安倍政権は憲法解釈の変更によって集団的自衛権の行使を可能にし、武器の輸出もODAによる支援も可能にしました。一方で近隣のアジアの国との関係は改善できていません。国際環境の変化に合わせ、安全保障政策を見直していくことは重要ですが、国民や近隣諸国に不安や疑念を与えるものであってはなりません。今年の国会で繰り広げられる安全保障の法整備の議論では、国民が納得できる法的な歯止めがしっかりとかけられるよう緊張感をもって国会論戦に臨んでまいりたいと思っています。

最後に、皆さまからいただきましたご支援とご期待にしっかりとお応えするため、地域の声に耳を傾け、誠意をもって行動していくこととお誓い申し上げ、新年のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。